

年頭のご挨拶

代表取締役社長 菅生 健史

新年あけましておめでとうございます。

昨年を振り返りますと、世の中の動きがコロナ禍から完全復活したと言える一年だったのではないのでしょうか。各種の活動が戻り、人流・物流も再び活発になりました。また世界から日本へのインバウンド需要も過去最高を記録するなど、コロナ禍が少し遠い昔にさえ感じられた一年だったかと思います。

当社の販売会である菱肥会も一昨年の全国総会開催に続き、昨年6月にブロック交流会@北海道、11月には海外視察にてインド訪問と、それぞれ5年振りの実施となりましたが、多くの方々に参加頂き盛況にて終える事が出来ました。参加頂きました皆様には、この場をお借りし改めまして心より御礼申し上げます。

一方、国内の農業では、やはり米価上昇が昨年の最大のトピックではなかったでしょうか。その要因は様々言われておりますが、各種のコストアップを吸収出来ないような米価が昨今続いていたと言われる中、生産者の皆様には良い状況だったと思います。食料自給率の低さが課題とされている日本に於いて、数少ない自給可能な農産物である米の生産が、持続可能な状況が続く事は非常に重要であると考えます。また、米にとどまらず、多くの農産物が適正な価格で販売されることで、生産者の生産意欲も高まり、持続可能な生産が維持され、肥料需要も回復するという循環が戻る事を期待致します。

2025年の干支は十干・十二支で乙巳（きのとみ）にあたりますが、「乙」は「木」の要素を持ち、草木がしなやかに伸びる様子や横へと広がっていく意味、また巳（み・へび）は、神様の使いとして大切にされてきた動物で、脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボルともされているため、乙巳（きのとみ）の年は、「変化・変革を繰り返しながら柔軟に発展していく」年になると考えられます。世界の環境変化のスピードが速まる中、肥料業界にも確実にその変化の波が来ておりますが、当社としては柔軟に対応し、力強く発展して参り度いと思いますので、本年もどうぞ宜しく願い申し上げます。

最後になりますが、皆様の事業の発展と、ご家族皆様のご健勝を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

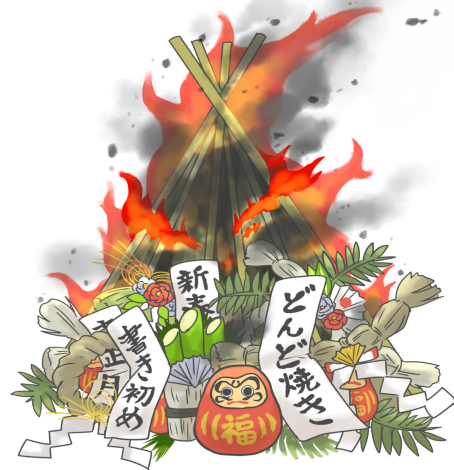


～十四日のモグラ打ち～

1月にはお正月とは別に「小正月（こしょうがつ）」と呼ばれる日があることご存知でしょうか。元日から1月3日までの3日が「大正月（おおしょうがつ）」と呼び、1月15日（厳密には14日の日没から15日の日没まで）が「小正月（こしょうがつ）」と呼ばれています。あまり聞き馴染みのない大正月と小正月ですが、その由来や行事についてお話します。大正月が新年に年神様をお迎えする風習が定着すると、小正月は豊作を占ったり鬼払いをしたりと大正月とは違う特殊な行事が中心になりました。この時期に全国各地で五穀豊穡の祈願や悪霊払いや無病息災の行事が多く行われているのもこのことに由来すると言われていています。

この小正月を締めくくる代表的な行事の一つに「どんど焼き」があります。元々は悪霊払いの行事だった「どんど焼き」は、やがて正月にやって来た年神様を天に送りかえす火（日）と位置付ける見方も生まれて来ましたが、日本では昔から大きな火を炊くことが魔除けやお清めになるとされ、どんど焼きの火にあたることで一年の無病息災を願います。また、どんど焼きの火で焼いたものを食べるとその年は風邪をひかないと言われ、書初めが高く燃え上がれば字が上達するとも言われています。

さて今回紹介したいのは「十四日のモグラ打ち」と呼ばれる1月14日に九州各地で行われている伝統行事です。最近ではモグラそのものを見かけることも少なくなりましたが、モグラは10cm～15cm程度のネズミに似た姿の生き物で土の中



中で生息しています。大きな前足で地中にトンネルのように穴を掘りミミズや昆虫の幼虫を食べます。そのために畑に穴が出来て作物が枯れたり、水田の畔（あぜ）から水が流れ出て畔が崩れたり、農家にとってやっかいな害獣とみなされてきました。モグラ打ちとはその言葉の通りで田畑を荒らすモグラを追い払うために行っていた農作業の一つでした。その後、モグラを追い払い五穀豊穡の祈願を込めてこのモグラ打ち儀式が九州各地で小正月の恒例行事になったと言われていています。そしてこのモグラ打ち儀式の主役は子供たちです。地域により音頭や歌詞は異なりますが、1月14日の夕方になると笹竹などのたたき棒を持った子供たちが「十四日のモグラ打ちい♪お家の繁盛祈ります♪繁盛♪繁盛♪」や、茶畑がある地域では「十四日のモグラ打ちい♪茶園畑のもぐら打ちい♪紙を一速（いっそく）打ち出せい♪」とか、唄が長い地域になると「十四日のモグラ打ちい♪モグラを打って祝いましょう♪祝いの国から800年、鶴は千年、亀は万年、ここのご主人万々年♪ばんざい♪ばんざい♪」と子供たちが大きな声で唄いながら地面を叩いて近所を回ります。

唄い継がれてきた歌詞も九州各地区で違えば、たたき棒の作り方も様々です。竹の先に藁を巻いたたたき棒が一般的に多く見られるのですが、藁を束ねて棒状にする地域もあれば、笹竹を束ねて先の方を藁で巻いてたたき棒を作るなど様々です。そして14日の夜にモグラ打ちの儀式が終わると、使用したたたき棒を自宅の庭の柿の木に掛け、柿の木がない家ではミカン、ナシ、モモなど実のなる木に掛けました。これはモグラ打ちの音がドスンと鳴ることと、果物がドスンと落ちるくらい実りよく成ることを願ってのおまじないでもあったそうです。最後は翌15日に行われるどんど焼きに持っていき天高くお見送りします。もともとは田畑を荒らすモグラの被害を防ぐために行われていた農作業でしたが、いつの日からか各家庭の玄関先でこの様に儀式として行われ、家内安全・家の繁盛を祈願する小正月の行事としてかたちを変えながら今日まで受け継がれてきました。こうした伝統行事が行われる地域は年々少なくなっている様に感じます。これらは昔から伝わる大切な習わしであり、それぞれに由来や意味があります。さて間もなく五穀豊穡を願う行事が多い小正月を迎えます。穀物が豊に実ること祈り、今年は大災害がなく穏やかな一年でありますように。（福岡支店）

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

編集事務局：田口、山内

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp

URL <http://www.mcagri.jp>